第四十回「全日本中学生水の作文コンクール」岐阜県優秀作文集

# 水について考える

主催　水循環政策本部、国土交通省、岐阜県
後援　文部科学省、厚生労働省、農林水産省、
経済産業省、環境省、
独立行政法人水資源機構、
水の週間実行委員会、全日本中学校長会

# 「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、次代を担う中学生の皆さんに、暮らしの中で体験している水にまつわる話や、祖父母、両親、先生から学び聞いた話などをもとに、「水」や「今後の水の使い方」について、考えていただこうという趣旨で、水の日・水の週間の行事の一環として実施しています。

今年は、第四十回を迎え、岐阜県表彰として最優秀賞一作品、優秀賞二作品を選定しました。

この三作品について、このたび優秀作文集としてとりまとめました。いずれも中学生の皆さんの真剣な思いが伝わってくる作品です。ぜひ御一読ください。

「第四十回全日本中学生水の作文コンクール」

一．応募要領

①テーマ　「水について考える」（題名は自由）

②対　象　中学生（中学生と同じ学齢の者を含む。）

③原　稿　四百字詰め原稿用紙四枚以内で日本語により表記されたもの

④あて先　岐阜県都市建築部水資源課（岐阜県内の応募者）

⑤募集締切日　平成三十年五月八日（到着分有効）

⑥版権等
- 応募作品は個人作品に限る。
- 応募作品の版権は国土交通省及び岐阜県に帰属する。
- 応募作品は返却しない。

二．応募状況　応募学校数　六校　応募総数　六十一作品（一年…二作品、二年…二十六作品、三年…三十三作品）

三．審　査　応募作品を岐阜県で審査（地方審査）し、五作品を中央審査対象作文として国土交通省に推薦。中央審査において入選以上の者を除き、岐阜県表彰受賞者を選定しました。

目次

岐阜県表彰

【最優秀賞】
『水不足について』　多治見西高等学校附属中学校　二年　松並　佑衣

【優秀賞】
『水道水を甘く見てはいけない』　多治見西高等学校附属中学校　二年　三上　万尋
『貴重な水を守るためには』　多治見西高等学校附属中学校　二年　永田　美優

『水不足について』

多治見西高等学校附属中学校　二年　松並　佑衣

「ダムの貯水率が減少し、各地で水不足になっています。」

私が夏によく目にするニュースだ。今まであまり気にしたことはなかったが、今年の夏は自然環境に関する本を読み、世界各地で起こっている水不足について知った。私の住んでいる地域は、大きな川が三本も流れており、水不足になったことがなかったため、このようなニュースを見て驚いた。そこで、調べてみると水不足により九億人弱の人が安全な水を使うことができないそうだ。ふと、「なぜ水の惑星と呼ばれるほど水が多いのに水不足になるのだろうか」、と疑問がわいた。

水不足になる原因は、四つある。

まず一つ目は、人がそのまま使える淡水はとても少ないということだ。地球は陸地よりも海や川、湖などの水部分のほうが多いが、人間がそのまま使える淡水は、地球の水の約二・五パーセントであり、北極・南極の氷を除くと約〇・八パーセント、地表にあるものは約〇・〇一パーセントというとても低い割合であり、地球にある水で使える水はとても少ない。

二つ目は、人口の爆発的増加である。人口の増加によって、水不足を加速させている。また、すでに水不足になっている発展途上国で人口増加の多くが起こっており、さらに水不足の生活をする人は増えていく。

三つ目は、気候である。降水量の差によって水不足の問題を複雑にしており、ヨーロッパや中東などでは、古くから水を巡る争いが続いている。また、異常気象により、雨の少ない地域は更に雨が少なく、雨の多い地域は更に雨が多くなり、地域よって水の量の格差を広げている

四つ目は、人間の行いによるものだ。発展途上国では、お金を稼ぐために森林を開発したり、農作物を大量に作り輸入したりしており、それらが結果的には水不足の原因となっている。また、殺虫剤や工業用水などにより地下水や海水などが汚染され、更に人間が利用できる、綺麗な水が減少している。

これらのことを知って、私はとても驚いた。私は今まで、地球にはたくさんの水があるから水不足にならないのではと思っており、水不足のニュースはいつも不思議に思って見ていた。だが、地球上でそのまま使える水はこんなにも少ないのだと知り、急に水がとても貴重な物に感じ、いつも身近な存在だった水がいつかはなくなってしまうとても大切な存在に思った。また、多くの人が普段何気なく使っているものが、結果的に水に悪影響を与えているということは、私にとって、とても衝撃的なことだった。自然の世界においてこのように互いに影響を受けあっていくということはとても神秘的ですばらしいことだと思う。だか、それは一つの生物のバランスが崩れると、その他の生物にも悪影響を及ぼしてしまうことでもあると思った。だからこそ、地上の限りである水を大切にし、守っていかなければならないと思う。

そのための工夫としては、洗剤の量などを多く使いすぎないことや、お風呂の湯を洗濯や掃除などに利用することなどがある。また日本には水浄化などの環境への取り組みをしている企業がたくさんある。また、国としても水問題の改善に向けて日本の更なる技術向上や、外国への技術提供などの取り組みをしている。その取り組みについて調べたり、活動に参加するなどの工夫もある。

私の家では、お風呂の湯をいろいろなものに利用している。このように一人一人が工夫をすることで水不足を改善できると思う。これからも、環境にやさしい生活を続け、周りの人にも今回調べて分かったことや、そのための取り組みなどを広めていこうと思う。

『水道水を甘く見てはいけない』

多治見西高等学校附属中学校　二年　三上　万尋

小学生の頃。私は不思議でならなかった。どうして、みんなは水道水を飲みたがらないのか。小学校の水道水は、きちんと水質検査をしており、冬は時々温かい。別に問題なんて一つも無いじゃないか。私は、そう思った。しかし、みんなは口々に言った。

「水道水って汚いでしょ。」

そして、私にこう聞いた。

「もしかして、水道水飲んでるの。」

本当は飲んでいるし、普通においしいと思っていた。でも、

「まさか。飲んでないよ。」

とうそをついた。

小学五年生。私の家に浄水器がやって来た。浄水器は、水をおいしくしてくれるだけではなく、きれいにもしてくれるそうだ。たしかに、浄水器の水はとてもおいしくて、水道水はもう飲めないと思った。だが、水道水が汚いから、浄水器の水よりおいしくないというようには考えられなかった。そこで、「水道水は本当に汚いのだろうか」と疑問がわいた。

まず、水道水はおいしくないと思っている人は多いのではないだろうか。これには、理由がある。それは、塩素を入れているということだ。水道水には、安全性を保つためにわざわざ塩素を入れているのだ。この塩素が水道水はおいしくないというイメージを持たせてしまう大きな原因である。一方、浄水器は、この塩素や有害物質を除去してしまう。だから浄水器の水はおいしいのだ。

次に水道水とミネラルウオーターについてだ。一見、ミネラルウオーターのほうが安全と思うかもしれない。だが、そうでもないのだ。ミネラルウオーターの水質は十八項目。これに対し、水道水の水質基準はなんと、五十一項目。地域によって古い水道管から有害物質が溶け出してしまうことがあるため、これだけでは、水道水の方が安全だとは言いきれない。しかし、これだけの検査などを行っているのは確かだ。

このことから、水道水は汚いわけではないということが分かるはずだ。

私は、今回水道水について調べて気づいたことがある。それは、「水道水のありがたみ」だ。私たちは、普段何気なく水を使っている。蛇口をひねれば、きれいな水が出てくる。世界の国々では、水道水が飲める国は十五カ国しかないと言われている。そんな中、日本は特に気にすることものなく、水道水を使うことができる。水資源が豊富な日本でも、水には限りがある。限りある水をいつまでも使っていくために、私たちは何が出来るのだろうか。

まずは節水。水を出しっぱなしにしない。洗濯はまとめて洗う。お風呂の残り湯を再利用する。水洗トイレの大小レバーを使い分けるなどだ。

次に、汚れのもとを流さないこと。食器の油汚れは紙で拭き取ってから洗う。調理くずを流さないなどだ。

そして、地域の川や水源を守ること。川や湖にごみを捨てない、清掃活動やボランティアなどに参加することだ。

このように私たちにもできることはたくさんある。たとえ、小さなことでも、これからも水を使い続けるためにも大切なことだ。私の家では、家族で水の使い方について話し合い、これらのことをできる限り行っている。

私たちは、きっと、これからも蛇口をひねり水道水を使っていくだろう。それは、普段から行う何気ない動作だ。だが、その何気なく使う水道水のありがたみに、我々は気づいているのだろうか。きれいな水道水が出ることが当たり前になっていないだろうか。水源が豊かな

日本だからこそ、日本の人々は、水をもっと大切に使わなくてはならないと、私は強く思う。

『貴重な水を守るためには』

多治見西高等学校附属中学校　二年　永田　美優

水は私の生活の身の周りにあって欠かせないものです。私も小学生のとき毎日、プールに行って遊んだ後に友達とかき氷を食べました。プールに入ると、ひんやり気持ち良く夏の暑さを忘れ、かき氷を食べるときは友達とたくさん話をして楽しみました。かき氷の氷の結晶は本当に美しく輝いていて今でも忘れていません。

けれどもそんな時、私は衝撃的な事実を本で知りました。それは、地球にある淡水の割合は地球にある水全体の０．０１％と知りました。水は私達の身の回りに必ずあって蛇口をひねればいくらでもすぐに出てくる存在だったから本当に驚きました。そこで私は気になったことがあります。一つ目は「一日に使う水の量はどれくらいだろう」二つ目は「先進国と後進国の使う水の量の差はどれくらい、また水不足の原因と水不足は何を引き起こすのだろう」ということです。詳しく調べてみました。

まず一つ目の疑問を調べてみました。すると私たちは一人あたり２００Ｌ～３００Ｌの水を使用していることが分かりました。また平均は２８９Ｌです。ちなみに５０Ｌが人間らしい暮らしをするために最低限必要な水の量です。しかし私たちはシャワーだけで６０Ｌもの水を使っています。他にもトイレに１０Ｌ、お風呂に２００Ｌ、洗濯に１００Ｌ、食事の用意、片づけに６０Ｌ、手洗い、洗面に６Ｌ、歯磨きに６Ｌと大量の水を使って生活していることが分かりました。また過去１００年間で水の使い方は６倍に増えています。水の使い方を考えたいです。

次に二つ目の疑問を調べたいです。ケニアでは一人あたり一日に約１４Ｌで生活している人もいるそうです。先進国と後進国の使う水の量の差に驚きです。また、世界の約７億人が水不足の生活をし、不衛生的な水で毎日４９００人の子供が亡くなるそうです。とても悲しい事実です。原因は私たち先進国の国々が豊かな生活を支えるために水の使用量を増やしたこと。また穀物の生産には大量の水が必要です。その水で育てた穀物を輸入し食べます。その食べ残りを捨てることで間接的に大量の水を消費しています。今、本当に世界は深刻な水不足です。水不足が原因で水をめぐっての国際紛争が起こっています。昨年の秋はアジアの広い地域で雨が降らずに家畜が５０％～８０％死滅したり、農作物の収穫量が減少しました。アフリカのサヘル地方では１９８０年以降１００万人が餓死しています。

日本では、考えられないことが今、地球で起こっています。水がない事で落とす命ほど辛く苦しいことはないと思います。

そこで私たちが普段の生活で心がけられることを考えてみました。まず料理には適量の調味料を使うこと。あまったジュースや調味料を排水に流さないこと。食器などの後片づけでは適量の洗剤を使うこと。使った油は排水に流さないこと。水が汚くなってしまいます。

案外、私たちが簡単に実行できそうなことばかりです。私も普段から実践したいです。

世界には水不足で亡くなったり、苦しんでいる方々がたくさんいます。原因を調べてみると、私たちが普段から、あたり前だと思って悪気なくしてしまっている行動ばかりで驚きました。同時に今までの行動を反省しました。水は世界の人々のために平等にあって私たちばかりが自由にいくらでも使えるものではないと思います。原因は私たちが作っています。解決する方法も考えて実行していかなければなりません。しかし水不足に対する人々の認識は低いです。だからこそ、今の世界の現状を伝えたいです。そのために、私は将来、少しでも水に関わる仕事をしたいです。

今からでも私は、できることをして、貴重な水をいつまでも守り続けていきたいです。